

第4学年 道徳学習指導案

- 1 主題 あやまちを反省し素直に伝える 1－(4) 正直・明朗・反省
- 2 資料名 つい、かっとなって (日本文教出版「あすをみつめて」4年)
- 3 主題設定の理由

- 本学級の児童は、男女仲がよく休み時間にドッジボールやサッカーなど男女問わずに遊ぶ姿が見られる。また、学習や係活動などにおいても、協力して話合いや活動をすすめることができている。しかし、中には自分の思うようにならないとつい、友だちを傷つけるようなことを言ったり、自分が間違ったことなどをしたときに、素直に謝ったり、自分の気持ちを伝えたりすることができない姿が見受けられる。それは、特に異性の友だちや、自分よりも弱い立場の相手に対して行われる傾向にある。自分の行為の善悪についてはある程度反省しながら把握できているが、一方で快樂さや興味の拡大から周りの人々のことを考えずに自己中心的な行動をしてしまう傾向にある。そこでこのような実態である児童に、本主題を設定し、自主性を尊重しつつ、特に自分を内省できる力を身に付け、過ちを反省し素直に気持ちを伝えることの価値について考えることは大変意義深い。また、男女共同参画教育の視点である、自己の伸長を目指す上でも意義がある。
- 「あやまちを反省し素直に伝える」とは、過ちを犯したときはすぐに素直に反省し、すぐにも正直に伝えるなどして改めようとする気持ちを持ち、明るく楽しい生活を心掛けようとすることであるととらえる。自己の過ちを認め反省する素直な心に至るまでには、まず、自分の取った言動によって相手がどのような気持ちになっているかに気付き、相手の立場に立って自分の言動の問題点を反省し、誠実に素直に相手に伝えようとする気持ちをもつことが必要である。そして自分自身に正直であることの快樂さを自覚できるようにすることも大切である。この内容は、高学年の真面目さを前向きに受け止めた生活を大切にし、自己向上させ、一人一人の誠実な生き方を大切にする学習へと発展するものである。また、男女共同参画教育の視点から、中学年で育てる資質の一つに「自己の個性の伸長」がある。具体的には「自分自身に正直であることの快樂さを自覚できるようにし、正直であるからこそ明るい生活が実現できることを理解して、元気に生活できるようにする」ことである。本主題の学習を通して道徳的価値を学ぶことは、男女共同参画教育の考えを育てる上でも意義深い。
- 本資料は共感的な読み物資料である。この資料は、主人公のゆうたが、見たい番組を登校前に録画予約していたが、おばあさんがそうじをしているときに、テレビのコンセントをぬいてしまう。おばあさんは、いつも節電を心掛け、使わない電気のコンセントは抜く習慣があった。ゆうたは、コンセントを抜かれたことに腹を立て、むしゃくしゃし、夕ご飯も食べなかった。翌朝も「行ってきます。」も言わずに家を出るが、おばあさんの元気がない声やおばあさんにきつく当たったことなどを反省し、素直におばあさんに謝ったという内容である。相手のことを理解せずに、その行動によって相手に腹を立てたり、必要以上に相手を責めたりする場面は子ども達にとってよくみられるものである。また、友だちや祖父母などに対して、相手の理由も聞かずに自己中心的な行動をとった経験をもつものであり、自分の経験と重ね合わせて考えられる資料である。本主題の指導にあたっては、まず導入段階ではつかっとなって相手に文句を言ったり、言われたりした経験を想起させ、価値への方向付けを図りたい。次に展開前段では、おばあさんを責めるゆうたの気持ちに共感させ、誰もがもつ心の弱さを引き出す。そして、次の日学校で、おばあさんがわざとコンセントを抜いたのではないことや元気がないおばあさんの様子を思い出して自分の態度を反省し、素直に謝ったときのゆうたの気持ちについて話し合い、価値に迫るようにする。展開後段では、これまでの自分の生活を振り返らせ、自分たちの中にも、反省し過ちを認める素直な気持ちがあることに気付かせる。さらに終末では、教師の説話を聞くことで、誰にでも思い違いや過ちがあるが、自分の言動を反省し、素直に認め、正直に気持ちを伝えることがとても価値のある素晴らしいことであることを感じ取らせ、今後の活動への実践意欲を喚起したい。

4 ねらい

つい、かっとなって人に投げかけた言葉や心ない言動がどれだけ人を傷つけたり苦しめたりするかに気づき、過ちに気付いたときは素直に改めようとする心情や態度を育てる。

5 準備

- 読み物資料「つい、かっとなって」 道徳ワークシート 場面絵 ハート図

6 学習指導過程

	学習活動	指導上の留意点
導入	<p>1 今まで、自分の言動で友だちを傷つけたり、逆にいやな思いをした経験を想起し、本時学習の方向性をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(発問) 今まで自分が言ったりしたこと友だちを傷付けてしまったり、逆に言われたことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちに決めつけをされて、いやだった。 ・ 間違っただのに、わざとされたと言われていやだった。 ・ 友だちを疑っていやな思いをさせた。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><めあて> 自分の言動で相手を傷つけてしまったとき、どのような心をもてばよいのだろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童が意見を出せるように、事前にアンケートを取っておく。 ○ 相手に言われた時、言ったときのことについて発表させ、価値への方向付けを行う。 ○ 児童からの発言が出にくい場合は、アンケートの結果から本学級にも、自分の言動で相手を傷付けてしまったり、いやなことを言われたことがある人がいることに触れる。
展開 前段	<p>2 資料「つい、かっとなって」を通して自分の言動で相手を傷つけたときどのような心をもてばよいのかについて話し合う。</p> <p>(1) ゆうたの心の弱さを追求する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料全体の範読を聞く。 ○ 資料前半のあらすじを押さえる。 <p>○ おばあさんが謝ったの聞こえないふりをしたときのゆうたの気持ちについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(発問) おばあさんが謝ったのに聞こえないふりをしたとき、ゆうたはどんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ はらがたってむしゃくしゃする。 ・ おばあちゃんのせいでビデオがみれない。 ・ あやまっても、許せないよ。 </div> <p>(2) 自分の行動を反省したときのゆうたの気持ちについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校でおばあさんにきつく当たったこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を配布し、全文を読む。(資料は事前に配布し、読ませておく) ○ 資料を読んだ後、主人公であるゆうたの心情をおさえながら、資料を共感的に活用する。 ○ ゆうたとおばあさんの関係、おばあさんが日頃から節電を心掛けていること、おばあさんがしたことなどを確認する。 ○ 場面絵を掲示し、ゆうたが怒鳴った場面を想起しやすいようにする。 ○ ワークシートに気持ちを書かせる。 ○ ゆうたの心の中の弱さに気付かせるために、ゆうたの相手の気持ちを受け入れようとしないわがままな気持ちに共感させる。 ○ ゆうたの心情の揺れ動きがわかるように、心情曲線、ハート図を示す。 ○ 資料後半のあらすじを確認する。 ○ 「ゆうたはぼんやりしていました」に着目させる。

	<p>を思い出したときのゆうたの気持ちについて話し合う。</p> <p>(発問) 学校で、おばあさんの力ない声やおばあさんにきつく当たったことを思い出したときゆうたはどんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おばあさんはわざとコンセントを抜いたんじゃないのに、怒鳴って悪かったな。 ・ おばあさんが謝ったのに、無視して悪かったな。 <p>(3) ゆうたが「おばあちゃんごめんね」と言ったときの気持ちについて話し合い、過ちを反省する素直な心を明確にする。</p> <p>(発問) ゆうたが「おばあちゃんごめんね」と言ったとき、どんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おばあちゃんに「ごめんね」と言えてほっとした。 ・ おばあちゃんが元気になってよかった。 ・ 「ごめんね」と言えて気持ちがすっきりした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートにゆうたの気持ちに共感させて気持ちを書かせる。 ○ ゆうたの心情の揺れ動きがわかるように、心情曲線、ハート図を示す。 ○ 「ほっとして」に着目させ、ゆうたの気持ちを考えさせる。 ○ 心情曲線とハート図を使って、ゆうたの気持ちが明るくなったことを視覚的に示す。
展 開 後 段	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">自分がしたことを反省し、素直にあやまる心</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 価値を明確にする。 <p>3 自分のしたことを反省し、素直に謝ってよかったという経験を発表し、自己の生活を振り返る。</p> <p>(発問) 今までゆうたのように、自分がしたことを反省し、素直にあやまったことがありますか。そのときどんな気持ちでしたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分にもゆうたのように反省し素直に謝ってすっきりした経験についてワークシートに書かせ発表させる。
終 末	<p>4 教師の説話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の経験について話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のしたことを反省し、素直に謝ることは相手が快くなるだけでなく、自分にとっても価値のあることに気付かせ実践への意欲付けとする。

7 指導の実際

(1) 事前・導入

日常の遊びや生活において、友だちや家族に対していやなことを言ってしまったり、いやなことを言われたりした経験について簡単なアンケートを取ることによって、本題材に対する意識付けを行った。また、資料の内容を把握させるために、事前に資料を配布して各自読ませておいた。

導入においては、「友だちとけんかして、相手の悪口を言った」「お母さんに注意されて腹が立ったから文句を言った」など、自分が相手にいやなことを言った経験や、「けんかをして悪口を言われていやだった」という発言もあった。これらの発言から、「自分が言ったことで相手を傷つけてしまったとき、どのような心をもてばよいのだろう。」というめあてにつながることができた。

(2) 展開前段

この段階では、主人公のゆうたの気持ちに共感させながら、「過ちを素直に認め反省する」という価値に迫らせていった。そのために、ゆうたはどのような気持ちだったかということを考えさせていった。

発問1「おばあさんがあやまったのに、何も言わずにねころがっていたとき、ゆうたはどのような気持ちだったでしょう」

- せっかく楽しみにしていたのに。おばあちゃんなんかきらいだ。
- おばあちゃんのせいで見たいテレビが見れないじゃいか。もういや、聞こえないふりをしよう。
- 何でテレビのせんをぬいたんだ。おばあちゃんは、ぼくがどれだけ楽しみにしていたのか知らないんだ。
- 勝手にコンセント抜かないでよ。一言ぼくに聞いてからぬいてよ。

〈考察〉

全員の児童が、テレビのコンセントをぬいたおばあちゃんを非難する記述をした。記述の内容から、ゆうたの心の中の弱さに共感することができていることが分かる。ゆうたの心情を示すために、ハート図と心情曲線をどのように示すのかを話し合い、マイナスの気持であることを確認した。

発問2「学校でおばあさんの元気がない声やおばあさんにきつくあたったことを思い出した時、ゆうたはどんな気持ちだったのでしょうか」

- おばあちゃんに、あんなこといわなければよかった。
- 昨日、強く言いすぎて悪かったな。本当はぼくが悪かったかもしれない。
- 昨日おばあちゃんにきつくあたりすぎたな。本当はぼくが悪いのに。帰ったらあやまらなきゃ。
- おばあちゃんにきつく言わなければよかった。おばあちゃんは泣いているかもしれない。あやまらないといけない。
- ごめんね、おばあちゃん。あんなふうにおこったふうに言って悪かった。
- きつく言いすぎたな。おばあちゃんきつとがっかりしてるだろうな。
- 少し言いすぎたかな。むしなんかしてわるかったな。ちゃんと言っていけばよかった。
- あー。一言声をかけていたら、あんなことにならなかったのに。おばあちゃんにひどいことを言ったよ。あやまろう。
- おばあちゃんに録画していることを言っておけばコンセントをぬいたりしなかっただろうに。ぼくはなぜ、あんなことを言ってしまったのだろう。
- おばあちゃんはずごとじゃないのに、おばあちゃんのせいにして何であんなに言ってしまったんだろう。悪かったな。

- おばあちゃんのことを一つも考えていなかったな。もうちょっとおばあちゃんのことを考えるべきだった。何であんなに逆ギレしてしまったんだろう。

〈考察〉

全員の児童が、おばあちゃんに強く言いすぎたことが悪かったと記述している。自分の行為が悪かったと反省するだけでなく、43%の児童が「録画していることをちゃんとおばあちゃんに伝えておけばよかった」「伝えていない自分が悪い」と自分がおばあちゃんにちゃんとビデオのことを伝えていなかったことが悪かったのだということを振り返り反省していた。また、自分の行為に、「おばあちゃんが悲しんでいる」「おばあちゃんのことを考えていなかった」とおばあちゃんのことを気遣う記述をしている児童が14%いた。記述の内容から、ゆうたと自分を重ね合わせ、自分の取った行為について振り返り、あやまりたいという気持ちに迫れたことがわかる。意見交流をした後、心情曲線について話し合った結果、発問1よりもさらにマイナスになるという意見で一致した。

発問3 ゆうたが「おばあちゃんごめんね」と言ったとき、どんな気持だったでしょう。

- すっきりしてうれしくなった。次からは、予約するときはちゃんと言っておこう。
○ あやまってすっきりした。もう、次はこんな失敗しないようにしよう。
○ ごめんなさいが言えてよかった。
○ ひどいこと言ってごめんね。おばあちゃんもいやな気持だったでしょう。
○ あやまってすっきりした。今度からは気を付けよう。
○ きつくあたりすぎたり、自分かって言ったりしてごめんなさい。
○ おばあちゃんと仲直りできてよかった。

〈考察〉

おばあちゃんに取った行動を反省し、素直に謝れたことに対して全員が「謝れてよかった」という気持であった。そのうち54%の児童は「すっきりした」「気持ちが明るくなった」と正直にあやまれてすっきりしたと記述している。このことから、自分の行動を反省し、素直に自分の気持ちを伝えることの気持ちよさについて実感し、「自分が言ったことを反省し、素直に謝る心をもつ」という価値にせまることができた。

交流後の心情曲線は上昇曲線となり、ハート図も赤い色に変わった。

(3) 展開後段

ここでは、「自分の言動を反省し、素直にあやまる心」について、自分のこれまでの経験を振り返り、自分にもそのような心があることに目を向けさせた。ゆうたの価値ある行動に共感させて自分の経験を振り返るために、「ゆうたに手紙を書く」という形式で書かせた。

発問4 ゆうたくんのように、自分がしたことを反省し、相手に素直に気持ちを伝えてよかったことはありますか。ゆうたくんに手紙を書いて伝えましょう。

- ぼくもゆうた君とにたように、人に悪口を言って、心がもやもやしていました。ずっと考えてあやまったら、ゆるしてくれました。やっぱりゆうた君もあやまったら、心のもやもやがすっきりしたようですね。ぼくもそうでした。
○ ぼくは休み時間に教室であばれていて、女子に注意されたけど、注意を聞かないで文句を言った。あとでちゃんとあやまったときもある。ゆうたくんも素直にあやまれてよかったね。
○ 私は、妹とテレビのリモコンを取り合って、ついリモコンを投げてこわしてしまいました。そのとき、妹のせいにした。でも後で悪いと思って妹にあやまった。だから、ゆうたくんもあ

やまれてよかったね。

- 私は友だちと言い合いになって、「もういい、帰って!」と強く言って、そのあと2日くらい話さないでいて、3日になって友だちに「ごめんね。」と言ってかいけつしたことがあるよ。ゆうたくんもおばあちゃんに言えてよかったね。私もこれからは友だちを大事にしたいと思います。ゆうたくんもおばあちゃんや友だちを大事にしてくださいね。

〈考察〉

全員の児童がそれぞれ、自分の経験を振り返り記述することができた。今まで、家族や友だちとの間で自分勝手な行動を取ったり、相手を傷つけたりしたことを反省し、素直に謝ってすっきりした心地よさが、価値のあることに気付いたと考える。「ゆうたくんもあやまれてよかったね。」ということばからも、本主題の価値の主體的自覚が図れたととらえる。

8 全体考察

共感的資料を用いて、主人公の気持ちに共感させることにより、自分の心の弱さや、葛藤場面、価値への気付きなど考えさせることができた。また、児童に身近な内容であったために主人公の気持ちに共感し、自分の経験や思いを重ねて深く考えることができた。

発問1で、おばあさんに対する不満の気持ちを強く持った児童ほど、発問2の価値に迫る強さへの追求場面で自分の言動を反省したりおばあちゃんの気持ちを気遣ったりする記述があるという傾向があった。心の弱さの追求場面、価値に迫る強さへの追求場面でしっかりと主人公に共感させることにより、行為後の快感情に共感できたと考える。

展開後段においては、自分の経験を振り返り主人公と同じような経験があること、そのことが価値あることに気付いたと考える。女子とけんかになる男子児童が自分の行為を振り返り、「あやまったときもある。」と記述していることからそのことがわかる。

また、心情の移り変わりを心情曲線やハート図を用いて表すことによって、児童が葛藤場面でマイナス感情になり、最後に自分の行為を反省し素直に謝り快感情になったことを視覚的にとらえ気持ちの変容がわかりやすかった。

9 成果と課題

- 共感的資料により主人公の気持ちに共感させることにより、価値に迫らせることができた。
- 主人公の気持ちに迫るために、気持ちを書かせたことは、じっくりと自分自身を主人公に重ねて考える上で効果があった。
- 主人公の行為に共感させることにより、日常の自分の生活を振り返り、自分自身の行為を反省したり価値付けすることができた。特に、友達との関係を見直してほしい児童にとって有効であった。
- 役割演技、動作化などの表現活動を取り入れると、より主人公の心情に迫ることができたと考える。
- 男女共同参画教育における育てるべき資質能力を整理し、発達段階に応じて道徳や特別活動をはじめ、各教科においても発達段階に応じて適切に育てていくこと。